

ともの家 だより

平成25年4月 第44号
発行 社会福祉法人ともの家

ストレスと不安をなくし、居心地の良い暮らしを実現する

～ともの家 運営基本方針より～

〒790-0101 松山市溝辺町甲 94

【Tel】 089-977-8502 【Fax】 089-907-8504

【E-mail】 tomo-home@triton.ocn.ne.jp 【Home Page】 <http://www.tomonoie.jp>



理念の実践と一層の質の向上を目指そう

理事長 永和良之助

今年度も「職員の資質の向上によるケアの質の一層の向上」が目標である。

ともの家は、①いかに障害が重くとも尊厳ある生活を保障する、②サービスの質は職員の質により保証される、③公開・透明・参加・協同の3つを運営理念としている。良質の職員集団でなければ入居者・利用者の尊厳は保障できないように、この3つの運営理念は相互に関連しているが、三角形の底辺を支えているのは職員の質である。それゆえ今年度も職員の資質の向上、専門性の向上を追求していかなければならない。

介護現場はいずれも離職者が多く人材確保に苦慮していると伝えられており、ともの家もその例外では決していないが、年々定着率が高まっている。無資格・未経験で入職した者も、今では13名全員が介護福祉士試験に合格し国家資格を得ている。4月1日現在、ともの家には常勤介護職員として33名が勤務しているが、介護福祉士の有資格者が半数（17名）を超えている。ともの家は開設以来、ほぼ毎月職員研修を行ってきたが、研修に励み自分を高めようとする者は、介護の仕事に誇りを持つがゆえに簡単に辞めたりはしないというのが私の見立てである。

理事長として常に苦慮してきたのは職員処遇である。介護の仕事はもっと社会的に評価され、給与等の労働条件ももっと向上すべきと思うものの、収入（介護報酬）の増加が望めないのが現実である。その狭間で常に苦慮してきたが、今年度はアンジュール、この道、パレットの各事業所の屋上、屋根に太陽光発電を設置する。原発に代わる自然エネルギーの普及にいささかなりとも貢献するということもあるが、売電収入を得て、職員の給与増、退職金積立、将来の事業資金に役立てるとというのが、主たる目的である。

理事会・理事長は経営責任を、ホーム長・管理者は各事業所の運営責任を、職員はホーム長・管理者の主導の下に、ともの家の運営理念を实践する責任を、それぞれ負っているという自覚が必要である。各自がその自覚を持って職務に専念するならば、ともの家は今後とも小さくともキラリと光る社会福祉法人として着実に発展していくと確信している。

25年度 各事業所の重点目標を紹介いたします



<アンジュールともの家> 管理者 菅原佐代子

2013年度の重点目標は ①個別ケアの充実 ②職員の意識の向上 ③ホーム内外の環境衛生 ④家族や地域との連携の4点をあげました。各職員がチームケアであることを意識して、レベルアップに取り組み、入居者一人ひとりのことを深く理解（アセスメントの充実）その人にとっての幸せと思ってもらえる内容を多くする対応（ケアプランの実践）をすること。また、その実行のためには内外の環境への配慮（季節感、感染症予防のための清潔、換気）、そして、家族や地域の協力をもらいながら、歩んでいければと思っています。

<ともの家この道> 管理者 吉田真紀子

①利用者が主体となる場面作りをする。

ともの家この道は、グループホームです。認知症の方が共同生活を通じて、心身の健康と生きがいのある生き生きと楽しい生活が送れるように、ご利用者一人ひとりの気持ちを大切に、その人らしい生活を送って頂けるよう支援してゆきます。

②職員の質を高める。

ともの家の基本理念として、掲げられておりますが、介護における「質の高いサービス」を提供するには、職員の質を高める必要があります。そのために、新聞や介護雑誌を読み、知識を増やし、また、外部研修など積極的に参加し技術を学ぶスキルアップを図っていきたいです。そして、職員間との連携を強化するためにもチームでケアを考える意識を高め、情報共有・チームケアの意識統一を行っていきます。

③ホーム内外の環境を整備する。

ご利用者が、ともの家で出来る限りこれまで暮らしていた生活を保つためにも、ご家族と共に家庭的な環境を作り、自分らしい日々を送っていただけるようなホームにしていきたいと思っております。

<溝辺ともの家> 管理者 二宮美和子

①明るく家庭的な雰囲気作りに努める

溝辺ともの家は、少人数(6名)であり、6名全員が、日中リビングで過ごしている。笑い声の絶えない、家庭的な雰囲気の中で楽しく生活していただけるよう工夫していく。

②個別ケアの実践に努める

個々に応じたケア計画を実践することで、その人がその人らしく生活できることを目指す。また、実践するなかで機能の変化・本人の意向を重視し、意欲ある生活ができるよう、随時見直し、カンファレンスを行っていく。

③ホウ・レン・ソウの充実を図る

関係者による報告・連絡・相談を密に行うことで、統一したケアの徹底を目指す。

<小規模多機能ホームともの家> 管理者 渡邊研太郎

- ①利用者の状態把握や観察する目を持つことで、迅速な対応を心がける。
- ②利用者への声かけや態度など、職員の関わりが原因で不安な気持ちや行動になっていないかを注意する。
- ③整理整頓を心がけ、利用者や職員にとって居心地の良い環境作りに努める。
- ④利用者と共に過ごすことを意識して、少しでも満足してもらえる取り組みを提案し、実践する。

どの目標にも共通することですが、職員は利用者と共に過ごす中で観察する目、特に利用者の表情や状態の変化への気づきを養うことが必要です。そのためには、職員一人ひとりが利用者との時間を大切にして、謙虚な姿勢で関わることで利用者が安心して気持ちよく過ごせるのではないかと考えています。

<小規模多機能ホーム第二ともの家> 管理者 永和里佳子

- ①本人が主役として生きる（障害があっても自分らしく生きる）
- ②ノーマライゼーションの推進と生活の重視（普通の暮らしの追求）
- ③ケアの質を高める職員育成（介護の質を高める職員研鑽）

中でも、日常に外出を多く取り入れるということには第2ともの家はずっと力を入れてきました。外へ出ることこそが人間の暮らしであり、要求であると考えためです。病気でもしていない以外、日常で一日に一度も外出しないことは考えられません。障害があっても自分らしく”生きることを支援するため、散歩、買い物、手紙の投函などを一緒に行い、畑づくりをして収穫したものをみんなで料理し、食卓を囲むという「家族」のような生活を第2ともの家では目指しています。それは「脱・施設」的な創造といえるかもしれません。「介護する側・される側」という枠を外し、そこに集う者たちが助け合いながら喜びや悲しみを分かち合っていきたい、と強く思っています。



主役は【私】

ともの家で活躍する利用者さんについて紹介したいと思います。
今回の主役は高齢者住宅にお住まいの楠本さんです。日頃から惜しむことなく、職員をサポートしてくださっています。時には皿洗い皿拭きなどの家事を、時には草引きや畑仕事などの力仕事を、時にはカレンダー



や避難経路図の作成などを、持ち前の器用さで難なくこなされ、毎日をはつらつと送られています。今回の記事の依頼も快く引き受けて下さりました。

私のモットーとして、一、「自分の分を守り決して無理をしない」二、「周りの人には温和な態度で接しよう」三、「可能な限りお手伝いをし、又ささえてあげましょう」がある。このように文章にするのは、いとやすいですが、実際の現状では心が揺らぐものです。さて、カレンダーを書くことについてのお尋ねがありました。約一年前のこと、身体もまだまなならなかったころ、小規模のお兄さん(古川さん)がアンジュールの2階で手の不自由な方のリードをしておりました。私もそれにのっかり今までお兄さんが書いていたカレンダーを私が書くことにしたのです。最初は手と頭の体操でしたが、小規模さん、この道さんならカレンダーを使ってくれると思い書くことにしたのです。

カレンダーは暦だけでなく、上半分は絵が描けるよう空白を作っています。特に職員さんが季節に合わせ、素晴らしい絵を描いてくれましたので絵を見ると心が和みました。又、小規模さんにお渡しするカレンダーは色を塗らないものにし、小規模さん内で手の動かせる方への運動材料としてあげました。手だけでなく、色使いも一役かったと思います。最近になって溝辺さんにもお渡しすることにしました。自分らで絵を描き、楽しんでいるのがよくわかります。又、カレンダーに必要事項を書き、利用して下さっているのがよくわかりました。今後も手の動く限り書いてあげたいと思います。

畑仕事については越智姉さんのリードです。私も野菜を作るのは嫌いじゃないので楽しいです。春が待ち遠しいですね。

楠本さんのご厚意兼リハビリから始まった小規模のカレンダー作りは、その完成度の高さから評判となり、他の事業所からも依頼が相次ぎ、大忙しの日々が始まりました。

文責：高市美紗（アンジュール）



家庭菜園の危機

アンジュールともの家の横には駐車場の空きスペースを利用した家庭菜園があります。農業に詳しい職員と利用者の楠本さんが中心となり、畑づくりをしています。収穫は他の利そんなある日、事件は起こりました。丹精込めて育てていた苗が何ものかによって、相次いで掘り起こされたのです。一番に疑われたのは溝辺の野山を駆け回る猪。慌てた楠本さんは囲いの設置を急ぎました。畑全体を囲う大仕事です。それから数日、ひょんなことから犯人が判明しました。

畑を荒らし、その現場で堂々と寝転がっているところを現行犯で取押さえられた犯人。それは、なんと、ともの家で飼われている愛犬の太郎。身内の犯行に周囲は困惑。日頃から鎖を外しては逃亡を図っている太郎は非難の視線も何のその、スーンとすまし顔。



度重なる襲撃を乗り越えて、掘り起こされては植えかえられてきた苗でしたが、先月無事成長し、立派なホウレン草となり食卓に並びました。感想としては幾度の困難を乗り越えてきたこともあってか、少しばかり丈夫過ぎる硬めのホウレン草だったようです。 文章：高市美紗（アンジュール）



お花見

松山も、例年より早い開花となりました。毎日の職員の会話、また家族さんの会話から「道後は八分咲きだよ」「自分の方は六分咲きだ」などと話がある中、「よし、近くの公園でお花見をしよう!」という運びになりました。

五日前くらいから、天気予報とにらめっこしながら日にちを決め、いざ当日。朝から風もなく、ポカポカ陽気です。お年寄りの皆さんは帽子を被って、いざ出発。すぐ近所の八白公園へ向かいます。全員揃ったところで半円を描くように、桜の木の前で記念撮影。

陽気に誘われてコクリコクリされている方、辺りを見回す方、笑顔で「綺麗ね」と言われる方、様々です。全体写真の後には、個人でも撮影です。スタッフが桜の木を見上げるようにパチリ。本当に綺麗でした。また、ご家族の参加もあり、ご夫婦と愛犬とでパチリ。愛犬が旦那さんの顔をペロリ。とても微笑ましい光景でした。今回は、外で食事までは、できませんでした。満開の桜を見て頂いたこと、また、お年寄り、スタッフ共に笑顔だったこと、大成功ではないでしょうか。最後に帰ホーム後、あるお年寄りの髪に花びらが…。文章：福岡輝（この道）



東予国民休暇村一泊旅行の思い出

2月28日西条市の東予国民休暇村へ一泊旅行が立案・実行されることに。第2ともの家からは、利用者4名が参加を希望されました。うち3名は家族での参加です。家族のいないSさんは、普段一緒に過ごしている“孫”（私の子供）とともに泊まることになりました。とても楽しみにしていたSさんですが、当日まさかの体調不良でやむなくキャンセル。残り3名とご家族で一路西条市へと向かいました。ほかには、アンジュールともの家からKさんが、小規模多機能ホーム（第一）ともの家からは男性利用者が4名参加されて総勢13名（子ども2人）となりました。

とても眺めの良いロケーションで、燦灘が見える露天風呂を全員で楽しみました。女性陣は協力して順番に入浴。気さくなOさんは観光客とも「お婆ちゃんいくつ?」「あんたは子供がおるけえ、おっぱい大きいねえ」などと会話して親交を深めていました。実はOさんはご主人が休暇村の会員なので、以前からよく全国の休暇村に旅行していたそうです。今回ま

たご主人と一緒に旅ができたためかとてもにこやかで、浴衣と丹前に着替えてからも誰彼をつかまえては「よかったねえ、こんな所へこれて」と話しかけていました。温泉は泉質がよくて出てもしばらく温かく、体がぼかぼかしていました。

食事は朝夕ともバイキングで、めいめいがお盆を持って好きなものを取りに行きました。伴侶とともに連れ添って食べたいものを選ぶ姿はほのぼのしていました。ビールで乾杯してからはいよいよ解放感に包まれ「ご飯がいいけど、パンも食べたいねえ」「デザートも何かほしいね」と、皆さん食欲旺盛で、心身とも満たされた様子でした。「今晩は久しぶりにお父さんと水入らず一つの布団で寝るけえね、邪魔せんってよ」そう言いながら満面の笑みで部屋に去ったOさん。3分後には廊下に出てきたOさんを困った顔で連れ戻すご主人の姿が…。結局11時ごろまでは（興奮して？）眠れなかったようです。それでも翌朝の充実したOさんの顔に、旅行の成功を見たのでした。



日常を離れ旅という時空に身をおくこと、それは一時的に心身を開放し、明日への活力を生み出すでしょう。旅行が好きなお年寄りたくさんいます。“認知症”になるとそれまで楽しんでいたことをあきらめなければならぬなんて、さびしいことです。旅行を企画すれば、エネルギーと手間、人員配置に出費など「余計」なことがずいぶんかかります。それでもお年寄りの皆さんに“夢”を諦めてほしくないという思いから、ともの家では一泊旅行を続けてきました。たとえ失ったものがたくさんあるとしても、残りの人生の中に幸せを感じ、生きる喜びを味わっていただくのが我々の仕事なのだと信じています。文章: 永和里佳子(第二)



お別れ欄 ～ともに過ごした時間を忘れません～



【アンジェールともの家】中林光子さん 平成25年2月16日逝去。享年78歳

4年間の在宅介護を経て、二つのグループホームで2年、そこでは様々なごたごたがあり、アンジェールに辿りついたのは2006年1月22日でした。

入所の相談時点から、ともの家の対応はそれまでのホームとは全く違っていました。「本人に会うことが先決」と車を1時間半走らせた理事長とホーム長、会ったとたん「このままではいのちに関わる。すぐともの家へ」と。

7年1カ月のアンジェールの生活の中で、妻は何度も余命宣告を受けました。その度に危機を乗り越え、医師は「本人の生命力もあるでしょうが、いい介護がなされているからでしょうね」と驚いていました。行き届いた介護に甘えて、メキシコやベルリンでの障害者世界大会に出かけた私でした。

最初から最後の「最期」まで、ともの家の皆様に本当にお世話になりました。また、ご家



族の皆様にはお会いする度に大きな励みをいただきました。ありがとうございました。介護に13年間ということは、13年間妻に向き合えたということです。悔やまれることも多々ありますが、介護が出来た幸せを噛みしめています。 中林重祐

【溝辺ともの家】 大井田正衛さん 平成25年3月9日午後逝去。享年100歳

とてもお洒落な紳士。大井田さんにお会いした時の第一印象です。最初、小規模多機能の「通い」利用だった大井田さんは、お迎えに行くとき時間をかけて身支度を整え、玄関から出る際「おかしくない？」と、よく私に聞かれました。「素敵ですよ。」とお伝えするとニコッと微笑み、出発。

また、月日が経つと大井田さんの人生にも触れることができ、裕福ではあるが決して平坦ではない人生を歩まれたことを知りました。しかし、そのようなお話をされる口調は、カラッとしており99歳の大井田さんの人間としての厚みと重みを感じました。

亡くなる一カ月ほど前、ご自分の身体が辛く思うようにならない時にでも、息子さんが来られると「ちゃんとやりよるか?」、仕事帰りの息子さんには「早よ休みなはいよ。」と最期まで心を砕き、父としてあり続けられていました。容態が悪化するにつれ、大好きな「ごはん」も食べられなくなり、実際は嚥下が困難で食べられる状態ではないにも関わらず「ごはん。ごはん。」と言われ、お辛かった事と思います。その姿を、ともの家に泊まり一緒に看取っていた息子さんも同じく、辛かったはずですが、最後の最期息子さんに、そばで見守られ生涯を終えることができ本当によかった。きっと今は、大好物の海老フライ、お寿司などなど…心ゆくまで味わっておられるでしょう。大井田正衛さん、安らかに。ありがとうございました。

山岡理紗（溝辺）



平成25年度の委員会は…

昨年度の委員会に新たに「環境整備委員会」が加わり五つの委員会となりました

研修委員会（井谷有比子）／アクティビティ委員会（古川晃）

環境整備委員会（曾我部則高）／地域交流委員会（越智節子）

広報委員会（山岡理紗）

（ ）…各委員会委員長

【24年度 各委員会委員長 総括】

- 研修委員会…研修後のレポート提出が義務付けられたこともあり、職員の姿勢が前向きになってはきたが、研修会での活発な意見・発言は、依然ほとんど出てこない。次年度からは、各事業所2名ずつ意見（質問や感想）を述べる人をたて、10名の発言者をあらか

